

4 . 進路・進学意識

①希望する進学段階

78.4%が「四年制大学まで」「大学院まで」を希望し、「専門学校・各種学校まで」10.5%、「短期大学まで」2.8%、「高校まで」3.9%となっている。時系列的にみると、①四年制大学・大学院の微減、②短期大学の減少、③専門学校・各種学校の増加がみられる。

Q

あなたは将来、どの学校まで進みたいですか。

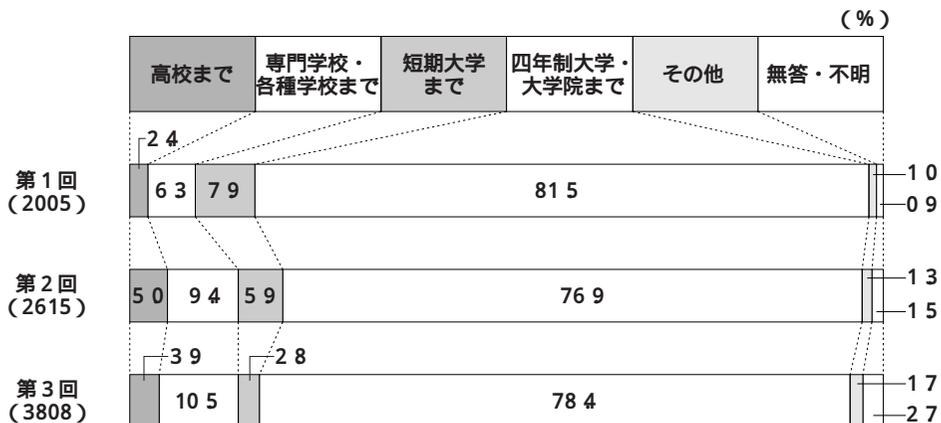
最後に、高校生の進学意識について、①希望する学校段階、②希望する大学のタイプ、③希望する入試の方法をみておく。

まず、高校生は、どの学校段階まで進学する希望を持っているだろうか(図1-2-14)。第3回調査の対象とした高校生は、8割弱(78.4%)が「四年制大学まで」「大学院まで」の進学を希望している。内訳は、「四年制大学まで」69.9%、「大学院まで」8.5%である。これに「専門学校・各種学校まで」10.5%、「短期大学まで」2.8%、「高校まで」3.9%と続く。

時系列的に比較してみると、①四年制大学・大学院の微減(第1回81.5% 第2回76.9% 第3回78.4%)、②短期大学の減少(7.9% 5.9% 2.8%)、③これに代わって専門学校・各種学校の増加(6.3% 9.4% 10.5%)がみられる。

1990年代の高校教育を全体としてみると、高等教育定員の維持と18歳人口の減少によって、上級学校への進学率は増加に転じ、「進学シフト」を経験したといつてよい。第3回調査でその傾向がみられないのは、調査対象が普通科に限定され、しかもややランクの高

図1-2-14 希望する進学段階(時系列)



注1) 第2回「四年制大学まで」69.7%、「大学院まで」7.2%、第3回「四年制大学まで」69.9%、「大学院まで」8.5%。

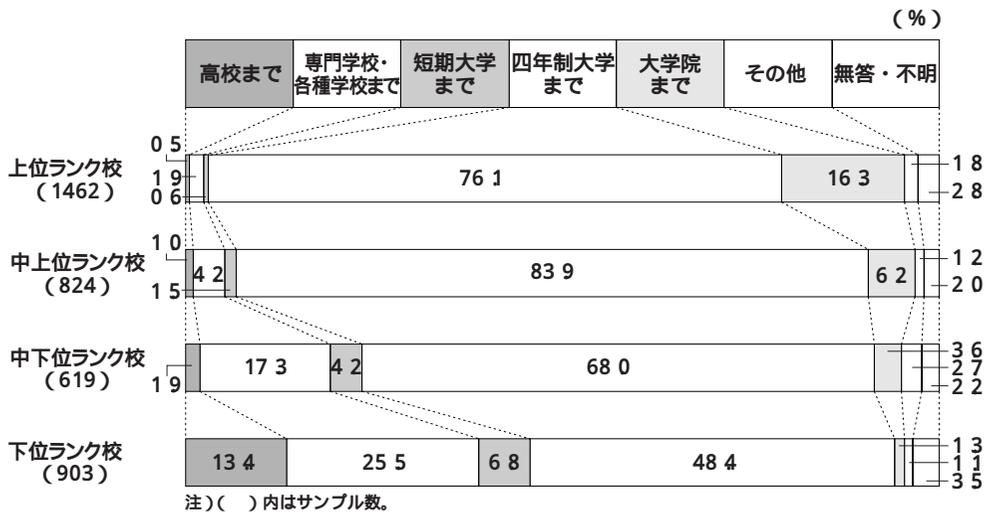
注2) ()内はサンプル数。

い高校に偏っているためである。

学校ランク別にみると(図1-2-15)、ランクの高い高校ほど、①四年制大学・大学院への進学希望率が高く(ことに大学院)、②短期大学および専門・各種学校進学希望率が低く、③高校までとする者が少ない傾向が

ある。下位ランクの普通科高校は、約半数が四年制大学進学希望、3割強が短期大学、専門学校・各種学校進学希望、1割強が高校まで希望であり、進路多様校の様相を呈している。

図1-2-15 希望する進学段階(学校ランク別)



②希望する大学のタイプ

希望する大学は、①「難関ではない国公立大学」49.9%、②「難関の国公立大学」26.6%、③「難関ではない私立大学」10.8%、④「難関の私立大学」5.3%の順に並ぶ。全体に、国公立大学進学希望が優勢だが、ことに上位ランク校と中上位ランク校でその傾向が強い。



「四年制大学まで」あるいは「大学院まで」と答えた方にうかがいます。あなたは、どんな大学へ進みたいと思っていますか。

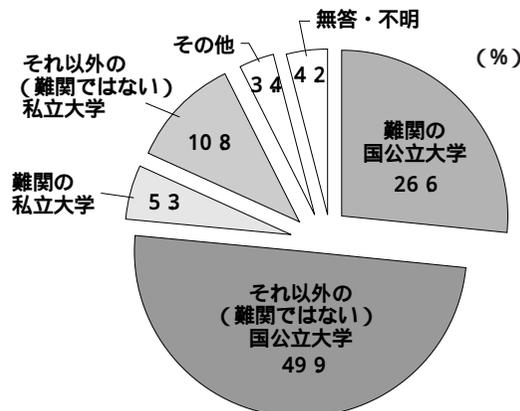
四年制大学あるいは大学院まで進学を希望する生徒に、どんな大学へ進みたいと思っているのかを尋ねた。選択肢は、①「難関の国公立大学」、②「それ以外の国公立大学」、③「難関の私立大学」、④「それ以外の私立大学」、⑤「その他」である。その結果が、図1-2-16である。

もっとも多かったのが、「それ以外の（難関ではない）国公立大学」49.9%であり、これに「難関の国公立大学」26.6%、「それ以

外の（難関ではない）私立大学」10.8%、「難関の私立大学」5.3%が次ぐ。

学校ランク別にみると（図1-2-17）、上位ランクの高校で「難関の国公立大学」への進学を希望する者が多く、「難関の私立大学」を希望するのは、中上位ランク校および中下位ランク校に多い。全体に、国公立大学進学希望が優勢だが、ことに上位ランク校と中上位ランク校でその傾向が強い（上位ランク校87.9%、中上位ランク校74.8%）。

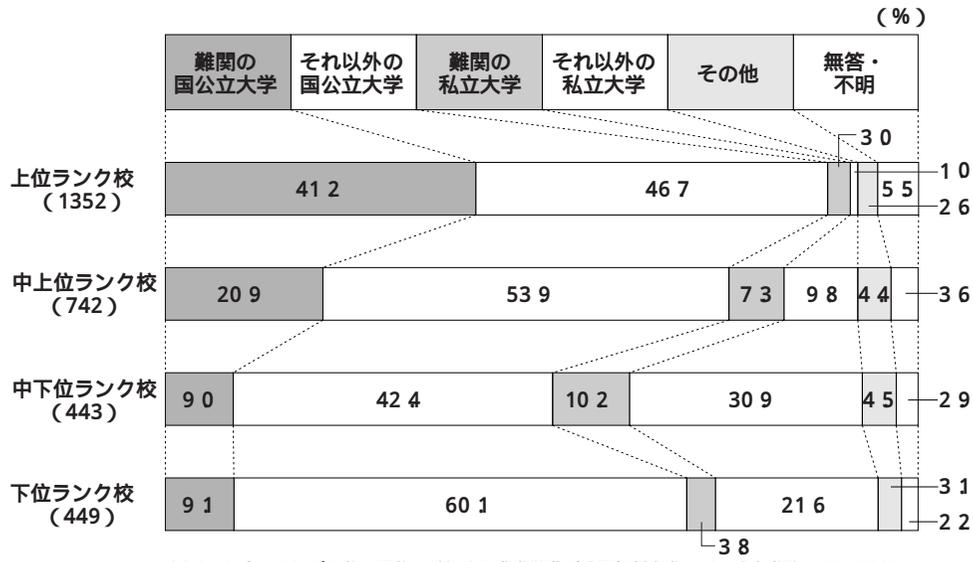
図1-2-16 希望する大学のタイプ



注1) 希望する進学段階が「四年制大学まで」および「大学院まで」と回答した者について設定。

注2) サンプル数は2986人。

図1-2-17 希望する大学のタイプ（学校ランク別）



注) ()内はサンプル数。母数は希望する進学段階が「四年制大学まで」「大学院まで」の2986人。

③希望する入試の方法

入試の方法は、58.2%が「できれば一般入試で」、39.1%が「できれば推薦入試（AO入試）で」を希望している。推薦入試の希望率は、下位ランクの高校ほど多い。

Q

大学へ進学する方法には、大きく分けて「推薦入試（AO入試）」と「一般入試」の2つの方法があります。あなたは、どちらの方法で進学したいですか。

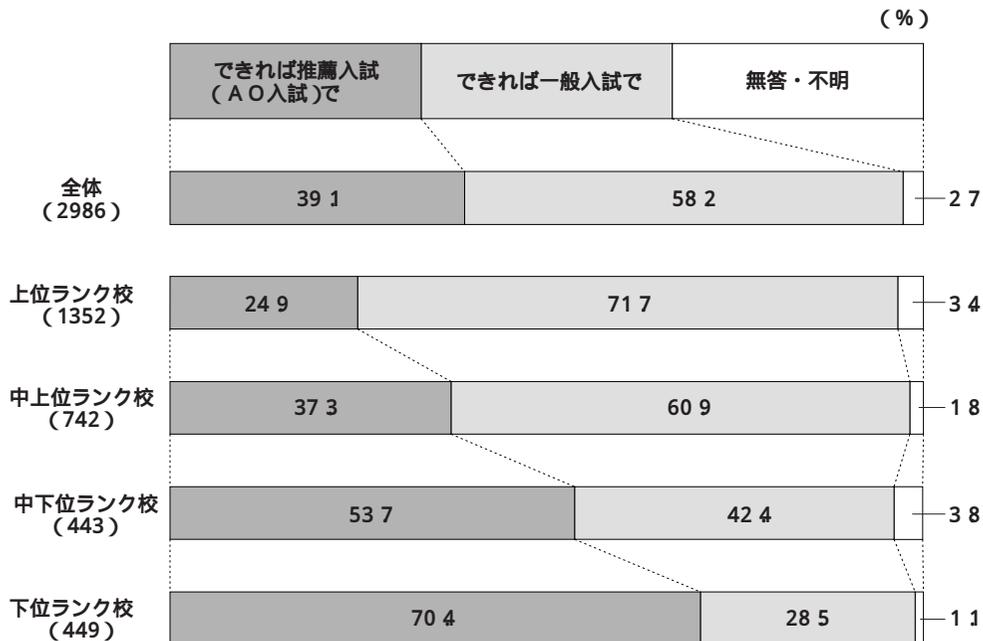
四年制大学あるいは大学院へ進学を希望する者について、続けて、「推薦入試（AO入試）」と「一般入試」のうち、どちらの方法で進学したいかを尋ねた（図1-2-18）。

全体としてみると、58.2%が「できれば一般入試で」、39.1%が「できれば推薦入試（AO入試）で」と回答している。一般入試を希望する者が多数派であるが、推薦入試を希望す

る者も4割弱に達する。

推薦入試の希望率は、学校ランクの低い高校ほど目立つ。「できれば推薦入試（AO入試）で」の比率は、上位ランク校から順に、24.9% 37.3% 53.7% 70.4%である。上位ランク校でも4人に1人は推薦入試派だが、下位ランク校ではそれが3人に2人に及んでいる。

図1-2-18 希望する入試の方法（学校ランク別）



注) ()内はサンプル数。母数は、希望する進学段階が「四年制大学まで」「大学院まで」の2986人。